

高知県感染症発生動向調査（週報）

2021年 第5週 （2月1日～2月7日）

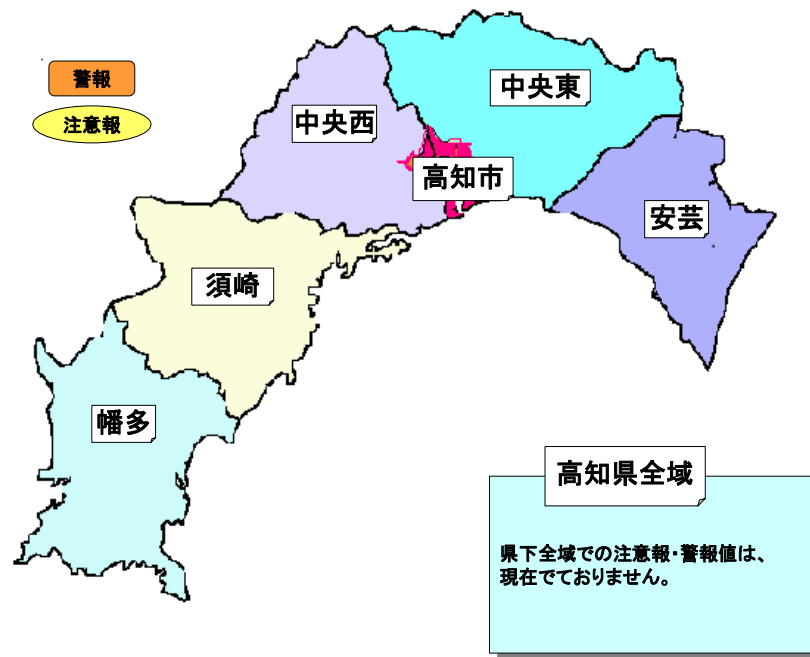
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	1.14	須崎で急減、幡多で減少していますが、中央西、安芸で急増しています。
突発性発疹	↗	0.32	高知市で急減していますが、中央西、幡多、中央東で急増、県全域で増加しています。
ヘルパンギーナ	↘	0.32	高知市で急減、県全域、中央東で減少していますが、幡多で急増しています。
手足口病	↘	0.25	幡多、高知市で急減、県全域で減少していますが、安芸で急増しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	0.21	高知市、安芸、幡多で急減、県全域で減少していますが、須崎で急増しています。
水痘	↗	0.21	須崎で急減していますが、高知市、中央東、幡多で急増、県全域で増加しています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

咳やくしゃみの飛沫による感染症はたくさんあります。電車や職場、学校など人が集まる場所では「咳エチケット」で感染対策しましょう。

＜正しいマスクの着用＞

- ①鼻と口の両方を確実に覆う
- ②ゴムひもを耳にかける
- ③隙間がないよう鼻まで覆う



★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

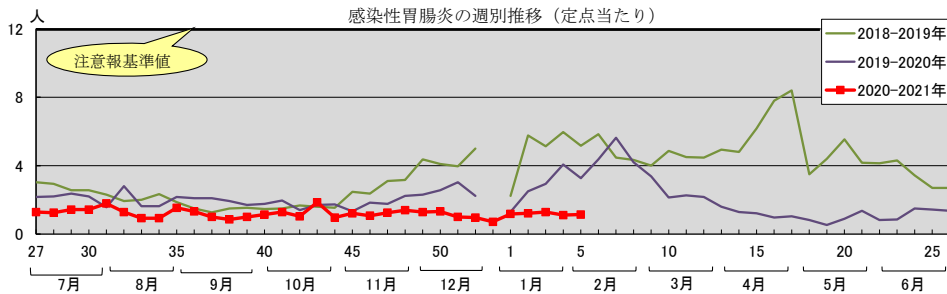
○感染性胃腸炎に気を付けて！

この病気は、ウイルス又は細菌などの病原体により嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。

潜伏期は、ノロウイルスは12～48時間程度、その他のウイルスは24～72時間程度、細菌は数時間～5日程度です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通じて発生していますが、特に冬場に流行します。発症してから通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長い時には1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。



※2020年は第53週までであるため、

2018～2019年・2019～2020年の折れ線グラフに途切れが生じています

<予防方法>

- ・帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。
- ・ウイルスによる感染性胃腸炎では便や嘔吐物を処理する時は気を付けましょう。（ノロウイルスについてアルコール消毒は無効です）

感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

【学校感染症】

感染性胃腸炎（流行性嘔吐下痢症）は学校保健安全法（同法施行規則第19条）では、条件によっては第3種の感染症の「その他の感染症」となります。出席停止期間の基準は「下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能」ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときはこの限りでないとして規定されています。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち上がったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	5	30歳代 男	安 芸
		1		30歳代 男	
		1		50歳代 男	中央西
		1		60歳代 女性	幡 多
5類	梅 毒	1	9	10歳代 女性	中央東

★定点医療機関からのホット情報

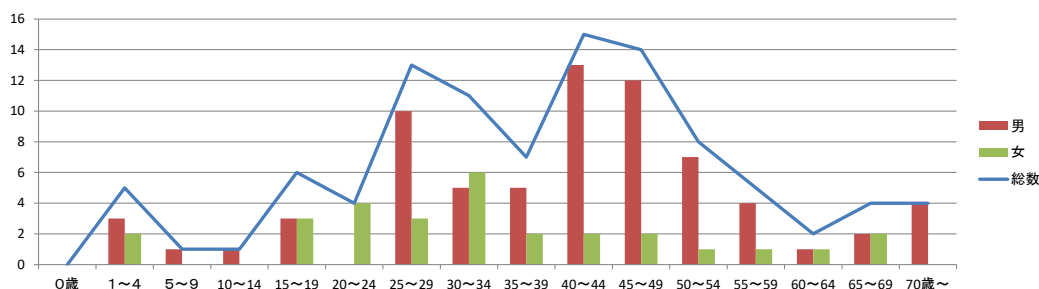
保健所	医療機関	情 報
中央東	JA 高知病院小児科	ヘルパンギーナ 1例（2歳男）
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 2例（1歳、2歳） ロタウイルス腸炎 1例（0歳）
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑 1例（3歳女）
中央西	くぼたこどもクリニック	溶連菌感染症 1例（8歳女：四万十町）
須 崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎 2例
幡 多	さたけ小児科	水痘 1例（6歳：ワクチン 2回接種済）

★県外で注目すべき感染症

○風しん、先天性風しん症候群を予防しましょう

2021年4週までの累積報告数は2人（男性）、2020年累積報告数は100人（男性71人、女性29人）となっており、そのうち87%（87人）が成人で、25歳から50歳代の男性が中心となっています。

2020年累積風しん報告数(年齢別・性別)



妊婦、特に妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんにも感染し「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

風しんの予防にはワクチンを接種し、風しんに対する免疫を獲得することが有効です。風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、抗体検査で確認することができます。

赤ちゃんが生まれつきの病気にならないよう家族みんなで風しん抗体検査を受け、免疫がない場合は予防接種を受けることをご検討ください。

【無料の風しんの抗体検査について】

現在県内では2つの事業で「風しん」に対して十分な免疫があるかどうか確認するため無料の抗体検査を実施しています。

- 対象者**・高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性
- ・妊娠を希望する女性または風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者など（生活空間を同一にする頻度が高い方。婚姻の届けを出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある方を含む）
 - ・風しんの追加的対策として、1972年（昭和47）年4月2日から1979年（昭和54）年4月1日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布
- 1962（昭和37）年4月2日から1972（昭和47）年4月1日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

検査受付：実施医療機関ごとに異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）

検査結果：検査後1~2週間後に郵送もしくは再来院にてお知らせいたします

●厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第5期定期接種受託医療機関）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

●無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/2020051200219.html>

●風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）
<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

●風しん Q&A2018年1月30日改訂版(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

○高知県の新型コロナウイルス感染症情報

高知県庁ホームページ：<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/111301/info-COVID-19.html>

高知県保健所別新型コロナウイルス感染症報告者数

			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	総計
1月	11	月			2				2
	12	火			3	1	2		6
	13	水			12	1	1		14
	14	木		1	2				3
	15	金			4				4
	16	土	1	1	2				4
	17	日			5				5
	18	月		2	7				9
	19	火		1	10		1		12
	20	水			16				16
	21	木		2	3		1		6
	22	金				1	1		2
	23	土			1		2		3
	24	日		2	3				5
	25	月		1	1				2
	26	火		1	2				3
	27	水						1	1
	28	木			2			4	6
	29	金			5		1		6
30	土			4			1	5	
31	日		1					1	
2月	1	月		1	1			2	4
	2	火							0
	3	水							0
	4	木						1	1
	5	金			1			2	3
	6	土			5				5
	7	日			2				2
総計			29	105	603	44	24	57	862

数字は各地域でその日陽性が確認された数

総計はR2年2月28日以降の報告者数

※1月5日須崎の報告は県外在住者

★ 直近の新型コロナウイルス感染症およびインフルエンザの状況 (2021年1月29日現在)

(国立感染症研究所IDWR2021年第3号より)

新型コロナウイルス感染症：

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において確認され、2020年1月30日、世界保健機関（WHO）により「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言され、3月11日にはパンデミック（世界的な大流行）の状態にあると表明された新型コロナウイルス感染症COVID-19は、2021年1月29日15時現在、感染者数（死亡者数）は、世界で101,452,470例（2,191,027例）、194カ国・地域（集計方法変更：海外領土を本国分に計上）に広がった。

国内では、厚生労働省により公表されている、各自治体がプレスリリースしている個別の症例数（再陽性例を含む）を積み上げた情報によると、2021年1月29日0時現在、新型コロナウイルス感染症の検査陽性者数は379,516例、死亡者数は5,452例と報告されている。累積のPCR検査実施人数は、暫定値として6,706,393例であった。全国の報告日別新規陽性者数は、2020年9月後半（第39週）より増加傾向に転じ、第53週（12月

28日～1月3日)は23,423例であった。2021年第1週(1月4～10日)から第2週(1月11～17日)にかけては、検査数と陽性数が減少したが、検査陽性率(検査数に対する陽性者数の割合)は微増した〔第1週:9.5%(42,882/451,302)、第2週:9.8%(41,290/420,313)〕。第2週から第3週(1月18～24日)にかけては、検査数が増加したにも関わらず陽性数は減少した〔第3週:6.8%(34,897/513,832)〕。一方、第52週〔6.7%(21,859/327,431)〕と比較すると、第3週は検査数が大幅に増加したなかで同程度の陽性率であった。

COVID-19による全国の入院治療等を要する者の数の推移については、2020年10月20日(5,031例)以降は、継続して増加していたが、2021年1月18日(71,129例)をピークに減少に転じた(2021年1月31日現在)。同様に、日本COVID-19対策ECMOnetが集計するECMO/人工呼吸器装着数の推移においても、感染者数の新たな増加に伴い、時間差をおいて10月下旬から増加し、11月29日以降は4月と8月のそれぞれのピークを上回り、その後も増加を続けたが、2021年1月20日(623例)をピークに増加は止まった(2021年1月31日現在)。継続した増加傾向は複数の指標でみられなくなったものの、全国的に、医療機関や介護施設等を含む集団感染(クラスター)の発生が相次いで認められており、依然として多くの重症患者の入院が続いており、医療体制の逼迫が懸念される地域が存在している。重症患者数については、一部の都道府県においては、都道府県独自の基準ののっとり発表された数値を用いて算出されていることに注意する。

また、感染症発生動向調査(NESID)病原体サーベイランスには、医療機関、保健所等で採取された検体から、各都道府県市の地方衛生研究所、保健所、ならびに検疫所で検出された病原体の情報が、任意ではあるが報告されている。2021年2月1日現在、地方衛生研究所および保健所から報告された、新型コロナウイルス感染症/新型コロナウイルス感染症疑い症例から検出された病原体は、SARS-CoV-2が10,205件、陰性が79,864件であった。これ以外にも検疫所で検出されたSARS-CoV-2が293件報告されている。

2020年5月29日以降、新型コロナウイルス感染症発生届に関する国への報告事務は、厚生労働省が運営する新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム(HER-SYS)を用いて行われることとなり、移行可能な自治体から順次、移行を実施し、現時点で全国の自治体で利用されている。厚生労働省においては、今後の統計情報の集計等については、HER-SYSに入力された情報に基づいて行うことを基本とするとしている。本稿では、HER-SYSに基づく情報は含めておらず、今後分析を行っていく予定である。

季節性インフルエンザ:

全国約5,000のインフルエンザ定点より報告された、2021年第3週(2021年1月27日現在)の定点当たりのインフルエンザ報告数は0.01(患者報告数64)となり、前週の定点当たり報告数0.01(患者報告数65)と同程度で推移している。都道府県別の第3週の定点当たり報告数(報告数)では京都府0.11(報告数14)、三重県0.10(報告数7)、岡山県0.07(報告数6)、福島県0.04(報告数3)、岐阜県0.03(報告数3)、滋賀県0.03(報告数2)、北海道0.02(報告数4)、愛知県0.02(報告数4)、兵庫県0.02(報告数3)、広島県0.02(報告数2)、栃木県0.01(報告数1)、群馬県0.01(報告数1)、東京都0.01(報告数5)、新潟県0.01(報告数1)、長野県0.01(報告数1)、大阪府0.01(報告数2)、福岡県0.01(報告数2)、埼玉県0.00(報告数1)、千葉県0.00(報告数1)、神奈川県0.00(報告数1)となっている。定点医療機関からの報告を基にした、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数は約0.1万人(95%信頼区間:0~0.2万人)となり、前週の推計値(約0.1万人)と同程度と推定された。また、全国約500の病原体定点からの報告による感染症発生動向調査(NESID)病原体サーベイランスにおける、インフルエンザウイルス分離・検出速報によると(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>)、2020/21シーズンのインフルエンザウイルス分離・検出報告において、2020年第43週、第44週の長崎県からの報告として、採取検体からAH1pdm09がそれぞれ1例ずつ検出された(2021年1月28日現在)。より重症な患者を反映する、全国約500カ所の基幹定点医療機関からのインフルエンザによる入院患者数(インフルエンザ入院サーベイランス)においては、2020年第36週1例、第40週1例、第41週1例、第42週4例、第43週1例、第44週4例、第45週4例、第46週9例、第47週2例、第48週5例、第49週3例、第50週5例、第51週2例、第52週6例、第53週9例、2021年第1週7例、第2週8例、第3週3例(2021年1月27日現在)が報告されており依然として少数である。

「感染症法に基づくサーベイランス」以外の情報においても、インフルエンザは低いレベルで推移しており、大きな増加傾向は見られていない。インフルエンザ様疾患発生報告数(全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様症状の患者による学校欠席者数においては、2020年第36週以降、第37週に学年閉鎖1、第43週に学級閉鎖1、第44週に学級閉鎖1が報告されたが、第45週以降は、休校・学年閉鎖・学級閉鎖の報告はない。一方、「国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向」〔国立病院機構141病院で、診察医師がインフルエンザ(疑いを含む)と仮診断した患者にインフルエンザ迅速抗原検査を

実施した検査件数と陽性となった数の報告]のデータにおいては、2020年12月1～15日では2,660件の検査のうち、インフルエンザ陽性は2件（インフルエンザA型2例）、12月16～31日では3,095件の検査のうち、インフルエンザ陽性は4件（インフルエンザA型4例）が報告された。

新型コロナウイルス感染症においては、2021年第1週以降、全国的には新規の検査陽性者数が減少に転じたが、陽性率は依然として高く、現在も多くの重症者が入院している。インフルエンザについては、例年はこの時期がピーク時だが、現在、複数の指標で依然として低いレベルで推移している。一方、インフルエンザ定点医療機関と基幹定点医療機関からの報告は少数ながら継続してみられており、今後の状況に関する注視と警戒が必要である。インフルエンザに対してはワクチン接種の実施が推奨される。二つの感染症に共通する個人の予防策として、マスクの適切な使用、手洗い・手指衛生の徹底、適切な換気等の実施に努めていただきたい。

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2021年2月8日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報

疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(57定点医療機関)

第5週 令和3年2月1日(月)～令和3年2月7日(日)

高知県衛生環境研究所

定点名	疾病名	保健所	高知県				計	前週	全国(4週)	高知県(5週末累計)		全国(4週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西				須崎	前多		R3/1/4～R3/2/7
ワルロピア	インフルエンザ						1 (0.02)	()	64 (0.01)	1 (0.02)	266 (0.05)		
小児科	咽頭結核熱				3		3 (0.11)	4 (0.14)	684 (0.22)	18 (0.60)	2,748 (0.87)		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	2	2	6 (0.21)	10 (0.36)	2,353 (0.75)	45 (1.50)	8,057 (2.56)		
	感染性胃腸炎	3	8	10	6		32 (1.14)	31 (1.11)	8,959 (2.84)	166 (5.53)	33,098 (10.50)		
	水痘		2	3			6 (0.21)	4 (0.14)	375 (0.12)	25 (0.83)	1,688 (0.54)		
	手足口病	3	1		1		7 (0.25)	12 (0.43)	141 (0.04)	44 (1.47)	601 (0.19)		
	伝染性紅斑			2			2 (0.07)	2 (0.07)	48 (0.02)	5 (0.17)	170 (0.05)		
	突発性発疹		2	2	2	1	2	9 (0.32)	7 (0.25)	1,230 (0.39)	48 (1.60)	4,679 (1.48)	
	ヘルパンギーナ		3	4				2	9 (0.32)	15 (0.54)	104 (0.03)	36 (1.20)	328 (0.10)
	流行性耳下腺炎								()	()	128 (0.04)	1 (0.03)	480 (0.15)
	RSウイルス感染症								()	()	750 (0.24)	()	1,984 (0.63)
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	1 ()	()	9 (0.01)
	流行性角結膜炎			1			1 (0.33)	()	128 (0.18)	1 (0.33)	553 (0.80)		
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	3 (0.01)	()	21 (0.04)
	無菌性髄膜炎								()	()	6 (0.01)	()	28 (0.06)
	マイコプラズマ肺炎								()	()	18 (0.04)	1 (0.13)	83 (0.17)
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)								()	()	1 ()	()	2 ()
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								()	()	2 ()	1 (0.13)	10 (0.02)
計	6	16	27	11	4	12	76		14,995	392	54,805		
小児科定点当たり人数	(3.00)	(2.29)	(2.87)	(3.67)	(1.75)	(2.40)	(2.65)			(12.95)			
前週	3	12	41	4	8	17		85					
(小児科定点当たり人数)	(1.50)	(1.71)	(4.55)	(1.33)	(4.00)	(3.40)		(3.04)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(57定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	高知県				計	前週	全国(4週)	高知県(5週末累計)		全国(4週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西				須崎	前多	
ワルロピア	インフルエンザ						0.25		0.01	0.02	0.05	
小児科	咽頭結核熱				0.33			0.11	0.14	0.22	0.60	0.87
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.22	0.67	1.00		0.21	0.36	0.75	1.50	2.56
	感染性胃腸炎	1.50	1.14	1.11	2.00		1.00	1.14	1.11	2.84	5.53	10.50
	水痘		0.29	0.33			0.20	0.21	0.12	0.83	0.54	
	手足口病	1.50	0.14		0.33		0.40	0.25	0.43	0.04	1.47	0.19
	伝染性紅斑			0.22				0.07	0.07	0.02	0.17	0.05
	突発性発疹		0.29	0.22	0.67	0.50	0.40	0.32	0.25	0.39	1.60	1.48
	ヘルパンギーナ		0.43	0.44			0.40	0.32	0.54	0.03	1.20	0.10
	流行性耳下腺炎								0.04	0.03	0.15	
	RSウイルス感染症								0.24		0.63	
眼科	急性出血性結膜炎										0.01	
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.18	0.33	0.80	
基幹	細菌性髄膜炎								0.01		0.04	
	無菌性髄膜炎								0.01		0.06	
	マイコプラズマ肺炎								0.04	0.13	0.17	
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)											
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)									0.13	0.02	
計	3.00	2.29	2.87	3.67	1.75	2.40	2.65			12.95		
前週	1.50	1.71	4.55	1.33	4.00	3.40		3.04				

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2021年 第5週)

